

一般教育等特別講演会

ブルシット・ジョブ クソどうでもいい仕事と官僚主義、 そして「クリエイティブ」なもの

日時：12月12日（金）
17時40分～19時10分
場所：3101教室

ブルシット・ジョブは「ホワイト・カラー」にほとんど特有の現象である。それがどのように「セミエリート」の職業と関係しているのか、ブルシット・ジョブはなぜ「お役所仕事」と不可分なのか、それが「創造的」とされる仕事にどのようにむすびつき、それを浸食し、閉塞させるのか。こういった点を論じたいとおもいます。



講演者：酒井隆史氏

立命館大学大学院先端総合学術研究科教授。専門は社会思想史、都市文化論。著書として、『通天閣 新・日本資本主義発達史』（青土社、サントリー学芸賞）、『暴力の哲学』『完全版 自由論:現在性の系譜学』（ともに河出文庫）、『ブルシット・ジョブの謎:クソどうでもいい仕事はなぜ増えるか』（講談社現代新書）、『賢人と奴隸とバカ』（亜紀書房）、『スネーク・ピープル：ジグザグデモ、あるいは戦術の系譜』（洛北出版）など。訳書として、デヴィッド・グレーバーの以下の著作、『負債論』共訳、『官僚制のユートピア』（ともに以文社）、『ブルシット・ジョブ』共訳、『啓蒙の海賊たち あるいは実在したリバタリアの物語』（ともに岩波書店）、そして、グレーバー+デヴィッド・ウェングロウ『万物の黎明』（光文社）。また、マイク・ディヴィス『スラムの惑星 都市貧困のグローバル化』（監訳、明石書店）、ピエール・クラストル『国家をもたぬよう社会は努めてきた』（洛北出版）など。